

平成28年度予算賛成討論

公明党京都市会議員団は、議第1号、4号、6～8号、17～20号平成28年度京都市一般会計予算他8件について、賛成の態度を表明しておりますので、会派を代表して討論を行います。

門川市長は、圧倒的な勝利を収められた市長選挙での市民とのお約束に基づいて①地域経済の活性化と安定した雇用の創出。②市民のいのちと暮らしを守り、子育て環境を充実 ③日本の“こころの創生”をけん引する「世界の文化首都・京都」の実現 ④参加と協働による地域の個性と活力あふれるまちづくりを四本柱とした予算を編成されました。

人々が豊かさを感じ、安心安全に暮らせる街づくりを進め「人口減少社会」の克服に挑戦する予算を基本姿勢に「こころの創生」を重視しておられます。私も日々生活の中で奮闘されている女性の方々と語りの中で感じる「優しさ」「こころ」といった女性の視点で大変、重要なことと思います。公明党は「人が生きる地方創生」を掲げ、何よりそこに生きる「こころ」大切にしてきました。今回、市長が予算案の中に「こころの創生」を盛り込まれたことは、極めて評価される所です。実質的に「心」が脈打つ市政が進むものと確信します。

平成28年度予算は、「はばたけ未来へ、京プラン」後期実施計画スタートの年度であります。門川市長にとって2期8年の実績を踏まえ、同プランを仕上げ、盤石なる京都の未来を拓くための極めて意義深い年度であります。と同時に、人口減少社会を見据えて国と地方が一体となり地方創生に取り組む「まち・ひと・しごと・こころ京都創生」総合戦略と一体的に取り組む予算でもあります。

私共、公明党は、事業推進にあたって、徹底した市民周知とご理解のもと、市民と一体で取り組むよう訴えてまいりました。門川市長は、市民の皆様は、より施策が伝わる力の強化を訴えられました。その市長の思いを全庁の職員が共有し、伝える力を総点検のうえ、市民一人ひとりが“みんなごと”としてまちづくりに取り組めるよう全力を挙げていただきますようお願いします。

そのうえで、以下、主な6項目について重点課題と重点施策の要望を申し述べます。

まず、財政問題についてであります。

厳しい財政状況の中、中期財政収支見通しにより平成32年度の特別の財源対策からの脱却をめざすとされていますが、これを現実のものとするためには、成長戦略の更なる推進が核となります。そのような観点から地域経済の活性化と安定した雇用の創出を重視して編成された来年度予算においては、産業戦略ビジョンのもと、京都中小企業担い手確保・定着支援事業をはじめ、中小企業振興対策の充実が図られるほか、DMOの構築など、京都市の産業振興における課題解決に向けた事業の創設や事業の見直しが随所に見られ、まさに成長戦略の更なる推進に期待が膨らみます。

2つ目に子育て支援、福祉のさらなる充実についてであります。

H29年には、いよいよ私共公明党が求めてきた「こどもはぐくみ局」が創設されることとなりました。その準備段階で、来年度は「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのない社会」を実現するという理念に基づき「子どもの貧困対策プロジェクト」が起ち上げられますが、とりわけスピードと実行力が重要でありますのでよろしく願いいたします。その中で、生活困窮者世帯の子ども達へ京都版「子ども食堂」の支援充実もしっかりと検討してください。

また、京都市が進めてきた真の待機児童ゼロ、質の高い保育、保育士の人材確保の取り組みは、国と連携し、子育ての最重要施策である保育事業の充実に努めていただくことを求めます。

健康寿命の延伸への本格的な取り組みにあたっては、特に介護事業における「新しい総合事業」をみこした施策推進においては、現状をしっかりとあげて、実情にあった構築がなされるべきであり、同時に、介護と医療の狭間の受け皿づくりに力を入れて、丁寧に取り組んでいただけるよう強く要望します。

3つ目は、防災対策についてであります。

東北の震災から5年。2つの風「風評」と「風化」を防ぐことが重要です。市民の防災意識の低下が一番恐れるところです。災害に真っ向から向き合い、日頃の備えをしっかりとする観点から、防災情報伝達サイトの充実、防災マップの更新など、情報伝達対策に重点がおかれています。より効果的に伝達がなされるよう工夫するとともに、防災意識の向上に向けて全庁をあげた更なる強化を期待します。

消防局については増え続ける救急需要に対して万全の体制を取っていただくと共に、今年に入って火災も増加しており、防火活動に向けても一段と啓発指導をお願いしたいと思います。

4つ目は環境政策についてであります。

「新・京都市ごみ半減プラン」に基づき、2Rと分別・リサイクルを着実に推進するとともに、「エコ学区」ステップアップ事業やレジ袋の有料化など、市内の取組が更に進む中、環境教育基本指針が策定されますが、環境先進都市として、取組が更に大きくなり世界をリードするものとなることを期待します。

5つ目に文化・スポーツの振興についてであります。

この度、文化庁の移転が決定いたしました。「世界の文化首都・京都」の実現に向け、大きく前進し、多くの市民の皆様喜んでいただいています。私は当選させていただき初めての5月の代表質問で文化行政と直結した市民を主役とした国際交流、市民に喜んでいただける文化・芸術の取組を訴えさせていただきました。文化・芸術は「心を豊か」に「心を結ぶ」力があります。市長におかれても先日のスピーチの中で、市民の文化力の向上、地域における文化力の向上が大切といわれました。そのス

ピーチのとおり「京都まるごと」文化力が一層向上するように文化事業を力強く推進すべきであると申しあげます。

合わせまして2020年東京オリンピック・パラリンピック等の開催を大きな契機として、多彩な事業も予定される中、都市格の一層の向上と国内外への魅力発信に向けて全力を挙げていただきたいと思います。

6つ目は、街づくり政策についてであります。

門川市長が就任されて8年。京都の町は大きく変わってきました。ハードの整備からこれからはソフト面の充実へと移り変わっていく、その意味から28年度は、次の京都の未来を決する街づくりをすすめていかれるにあたり、予算の獲得と市民の理解を車の両輪としてご努力をいただきたい。そのためには、市長が常々いわれている、市民との共汗が大切であります。市民の皆様にもみなごととして協力していただく。市民が主体者となれる一つの足掛かりとなる取り組みとして、ICTを活用した「みつけ隊」の運用については、自分たちのまちを美しくすることを楽しみながら進められるよう、成功裏に終わらせていただきたいと思います。

続いて公営事業の予算についてであります。

市バス・地下鉄事業につきましては、京都市一丸となって経営健全化に取り組んできた結果、市バスは黒字に転換し、更に自立した経営基盤の確立へ進んでいます。地下鉄は経営健全化への大きな指標である一日当たり5万人乗客増も手の届くところまでできました。この間の取組みを財産として残しながら、次期ビジョンでは、市民の足を守るため、景気や市民生活の変化にも耐えうる交通局の経営基盤を更に確かなものにしていただくことを明確に打ち出していきたい。

上下水道事業では、水需要の減少が中長期的に続くと予想されるなか、給水原価の管理をしっかりと行い引き続き低廉な水道料金を維持していただくようお願いします。そのうえで、濁水・漏水事故など緊急時は市民の安心・安全を最優先して対応をすること、また28年度に統合完了予定の京都市地域水道、京都市京北地域水道、京都市特定環境保全公共下水道については遅滞なく事業の進捗を図られるよう要望しておきます。また現状の直結式給水の適用条件については、衛生面からもその緩和策に向けて検討を行うことを要望しておきます。

以上、会派の考え方を述べてまいりましたが、今後、本市における地方創生の取り組みを着実に推進するとともに、市民が幸せを実感できる市政運営を推進されることを求め、私共公明党も再選された市長と共に緊張感をもって、市政のチェック機能としての役割を十全に果たし行くことを表明し賛成討論といたします。

ご清聴ありがとうございました。